

みらいずカレッジ 2017 キックオフイベント

- 日時…6月17日(土)
- 場所…万代市民会館
- 参加者…84名

【参加者からの課題抽出 (ポストイット)】

テーマ：「地域×学校で感じている課題・疑問・困り感」

●新しいことをする時間

- ・やりたいことはたくさんあるが、時間、教育課程、お金などのバランスが難しい
- ・新しいことをする時間にカリキュラムが追いつかない
- ・忙しくて時間がとれない
- ・教員が忙しすぎる(分掌・部活・進路指導)
- ・風通しをよくしたい、たくさんの人と出会わせたいという気持ちはあるが、みんな自分のことで手一杯で地域とつなげることができない
- ・学校が社会とつながり、社会を創り出す力は大切だと思う。しかし現在の学校は社会の多くの課題解決を求められ、アップアップの状況。もっと身軽になって社会を創り出す力に向かいたいが、と思う。
- ・子どもも大人も目の前のことに追われて余裕がない。
- ・多忙を極める状況でどうやって地域と学校が協働する機会と場作りを進めていくか

●先生が社会とつながれない

- ・学校の先生方に、積極的、能動的に行動してもらうために必要な働きかけはなにか？
- ・社会を感じたり経験したりする場が少ない

●学習についての情報共有の必要性

- ・指導法や学習材について、学校と保護者が情報を共有する必要性

●学校×地域の本当の学びの場を作れない

- ・学校行事や総合などの機会がないと、子どもたちが気軽に地域と関われ機会がもてない
- ・学びをどう結び付けていったらいいのか？
- ・教科では「総合」「生活」がメインの学びの場となるが、実際それらを中心とした小中学校はまだ少ないし、教員の異動の問題もある。

●教員の意識改革・連携するメリットが伝わらない

- ・授業のデザインを変える教員の意識改革
- ・生徒や同僚の先生方に地域と連携することで得られる学びをどのように伝えたいのか

●学校事務・地域教育コーディネーターが地域とつながれない

- ・学校事務と地域のつながりかた
- ・地域教育コーディネーターが学校では活躍できていない
- ・学校現場の理解不足

●地域活動の義務感が強い

- ・中学のとき総合の時間で地域活動の体験をしたが、まとめの時間もなくやりっぱなしになってしまいどういうメリットがあるのかわからなかった
- ・高校生のときの地域清掃も、義務感が強く、どんな意味があるのかわからなかった

●教員が転勤すると引き継げない・成果権がない

- ・「学校発」を地域に受け継いでもらおうとしているけれど難しく、結局学校でないとできないが転勤があり厳しい。
- ・先生方が地域と学校の協働の成功体験を積み上げていくにはどんな方法があるのか

●暗記型の学びが強かった

- ・同世代の学生が暗記型の勉強しかできず、主体的な学びや、思考力、判断力、表現力が低いように感じる

●スポーツ成果主義の壁

- ・「ゼビメダルを」などスポーツ(オリンピックやワールドカップ)への成果主義が、クラブや部活により子どもを地域から引き剥がす元になっている

●地域×学校 具体的に何をしたらいいの？

- ・学校では地域と連携しようとして取り組んでいると思うが、更に連携を深めていくには具体的にどのような取り組みが考えられるのか？
- ・学校現場で働いていて、地域との関わりがほとんどないということを改めて感じる
- ・若いころは社会を創り出す活動をしていたが、家庭を持ち仕事と子育てをする中でその活動をやめてしまった。子育ての中で社会と関わらず育てた気がするので、成人した今どうするのか、若者が気づくにはどのような場があるか
- ・楽しい協働にするための方法やアイデアがほしい

- ・学校の先生が忙しくて手が回せないことを外部の人にやってもらおうとどんな問題が起きるのか？
- ・社会の仕組みが変わっても人の本質は変わらないので、そこにもスポットを当ててみるといいと思う

●地域の想いと学校の想いのズレ

- ・職員の意識の温度差
- ・Win-Winにならない
- ・地域課題と学校文化のミスマッチ
- ・先生の多忙感と地域の無理解
- ・協働の無理解
- ・地域からの要請と学校のカリキュラムのズレ(必要性や価値について)をどのようにコーディネートしていくか
- ・先生の想いと社会の想いをどうつなげるのか
- ・社会に開かれた学びと高校進路室のギャップ

→●学校×地域 本音で話せる機会をどう作る？

- ・学校と地域が同じテーブルで話せる機会をどう作るか
- ・地域と学校が協働して社会について考える機会を作る。負担はあるが実りがある

●何が地域と社会をつなぐのか

- ・地域と学校をつなぐ人やものは何？

→●学校と地域をつなぐ第三者との関わり

- ・学校と地域をつなぐ第三者(中間支援組織)の積極的な参画が必須
- ・学校と地域だけでなく社会教育とのつながりもあるといいが、まだまだつながれていない気がする
- ・他職種(福祉や医療)野連携

→●コーディネーターの必要性

- ・学校と地域をつなぐコーディネーターが必要

- ・社会とはもっと小さくてコンパクトな社会から作り始めるもの
- ・コーディネーター的な役割の人がいないと接点がなく、関係を築きにくい
- ・協働を進める推進力(リーダー)の不足
- ・行政組織を横断的につなぎ、実働できる場所がない

●大人が社会に関わる力がない

- ・大人が社会に開いていないことが問題だと感じている
- ・大人が自らのライフスタイルを考えられていないから、子どもも将来を具体的に考えることができない
- ・PTA活動を誰も引き受けたがらず、親は学校にまかせっきり
- ・大人が社会と関わる力、社会を創り出す力を養うにはどうしたらいいか
- ・「親が無関心」。無関心な親の子どもをどのように取り込んでいけるか

→●現状を明確に理解しておらず、何が課題かわからない

- ・どこに課題があるのかわからないので、地域に開かれた学びの必要性を認識できない
- ・現状自体があまり把握できていない状態になっている
- ・暮らしている足元をどう読み込むか(情報化社会の、あるき、見て、聞く学び)
- ・社会に作られた教育課程(学び)、生活に結びついた学び(例：食、金、政治、身体、いのち、生活多様性、「人」とは?)

●学校と地域が同じ視点で役割分担できるか？

- ・自分が地域と学校に対して何ができるのかわからない、けど何かしたい
- ・学校が求めることと地域が求めることのバランスが難しい
- ・地域を形成するために何ができるか？という視点を常に意識していきたい
- ・学校と社会間、学校と家庭間の役割が変化している？
- ・これまでの地域連携との違い
- ・地域と学校の協働について、どちらかがそれぞれの問題に取り組んでもうまくいかない。同じものを見て考え、解決しようと意思がないと不信感につながってしまう

→●学校と地域のお互いの対話が足りない

- ・もっと対話を通じた相互理解が必要ではないか
- ・保護者と地域の意識のズレ(年代の違いや儀式化されたイベント)が大きい
- ・地域は学校にとってお客様になってしまう

●学校と地域が協働して取り組む地域活動の場がない

- ・運動以外の課外活動が必要
- ・子どもとのコミュニケーション能力を高めること
- ・地域に支えられている Win-Win の関係になる
- ・子どもたちが地域で活動する時間や機会がほとんどない
- ・地域差や学校差がある？特に社会人目の高校、大学における取り組みは？